

2026年(令和8年)5月15日 金曜日

「歓喜の陽光」来場者魅了

新居浜・別子銅山記念館

別子銅山開坑記念日の9日、新居浜市角野新田町3丁目の別子銅山記念館で、太陽光の柱を觀賞する恒例行事「歓喜の陽光(ひかり)」があり、来場者が銅山の歴史に思いをはせた。

別子銅山は1691年のこの日、江戸幕府の許可を受けて住友家が採掘を始めた。良質

明が落とされ、線香がたかれる中、光の柱が出現。来場者は手をかざしたり、撮影したりしていた。

山記念館で、太陽光の柱を觀賞する恒例行事「歓喜の陽光(ひかり)」があり、来場者が銅山の歴史に思いをはせた。

記念館は、天窓(直径約40センチ)から同日正午に日光が真っすぐ差し込み、光の柱が現れるよう設計。1975年の開館以降、毎年実施している。

別子銅山について学び、市内外に発信する新居浜南高校魅力部ユネスコ部の2

「歓喜の陽光(ひかり)」があり、来場者が銅山の歴史に思いをはせた。

9日は休日で天候も良いとあって、大勢が来館した。正午に照

は「昨年は天気が悪く、初めて見られた。幻想的で感動した」と話していた。

別子銅山は1691年のこの日、江戸幕府の許可を受けて住友家が採掘を始めた。良質

9日は休日で天候も良いとあって、大勢が来館した。正午に照

は「昨年は天気が悪く、初めて見られた。幻想的で感動した」と話していた。

(月岡岳)



天窓から差し込む幻想的な光に手をかざす子どもたち

「『歓喜の光』来場者魅了 新居浜・別子銅山記念館」

2026年5月15日付愛媛新聞(掲載許可番号:d20260515-02)